

リトアニアの歴史

160781207 住 柊人

1) リトアニアの決定的な年

a) ゴルバチョフ政権とバルト三国

ア) 一九九〇年、ソ連で最高会議代議員選挙を開始

→ バルト三国では独立主張候補が議員の過半数を獲得

b) ゴルバチョフ政権がソ連崩壊の危機を感受

→ ア) リトアニアに対し、経済制裁を強行

イ) ソ連に対しても、農業製品の売渡しを拒否

c) ソ連全土で実施の「連邦制維持」の賛否

→ 「国民投票」をバルト三国は不参加を表明

2) 六百キロの「人間の鎖」

a) 人間の鎖とは

リトアニアのビリュス→ラトビアのリガー→エストニア
のタリンまでの距離

b) バルト三国がソ連へ併合

一九三九年、独ソ不可侵条約に付属の秘密追加議定
書の取り決め



一九八九年、参加者約百五十万人のデモ
内容: ア) 条約の不法性の承認
イ) 「独立」の要求

3) リトアニアの興亡小史

a) 十三世紀、大公ゲジミナスがリトアニア王国を建国



b) 一三八六年、リトアニア王とポーランド女王が結婚
→ポーランド・リトアニア連合王国誕生



c) 一七九五年、帝政ロシアによる第三次ポーランド分割
→本土の大部分はロシアに併合



d) 十九世紀後半、自治を目指す民族運動が活発化

ロシア社会民主労働党の綱領

ア) ロシア国家からの独立

イ) 民族国家の形成

ウ)(ア)(イ)の権利を全ての民族に許可

4) 一九四〇年のリトアニアをめぐる事態

a) ソ連・フィンランド戦争後の情勢

両国間に平和条約が締結←バルト三国は安全

b) 同年五月、独がベネルクスに侵攻

→バルト諸国へのドイツの脅威を懸念



ソ連はバルト三国併合の政策を一気に進行

ア) 同年六月、ソ連軍基地での射殺事件

→それを口実に最後通牒を提示

内容: 内閣の更迭、ソ連守備隊の自由進駐

イ) 三国に新政府結成のための特別使節を派遣

→リトアニアはデカノーゾフ

c) ソ連の政治的圧力

ア)内閣総辞職

→ソ連推薦のパレツキス首班の人民政府誕生

結果:リトアニアは主権を奪取

イ)リトアニア国家制度の変更

→リトアニア・ソビエト社会主義共和国に変更

ウ)ソ連への加入問題

→数時間の審議で加入が決定

これらのことはラトビア、エストニアでも実施

結果:バルト三国は独立国家としての性格と実体を喪失